

NPOワンポイントアドバイス!

皆さんの組織でも、「会議」はよく行われると思います。
 しかし、そもそも、今行われている会議が何のための会議かを理解していないと、
 効果的な会議にはなりません。そこで、今回からは、会議のタイプ別にアドバイスをしていきます。
 まずはじめは、そもそも、会議にはどんなタイプがあるのか…について整理してみます。

1. 顔合わせ会議

団体やプロジェクトを始めようとする時、まず最初に行う会議です。

2. 定義を決める会議

組織やプロジェクトの重要な概念や、定義、組織名、目標などを決めるための会議です。

3. アイデアを出す会議

プロジェクトを開始する場合など、良い企画をつくるためにまず行う会議です。

4. アイデアを整理する会議

出したアイデアを整理し、精査し、実現可能な企画に組み立てるための会議です。

5. AかBかを選ぶ会議

複数の中からベストなものを選ぶための会議です。

6. 企画会議

活動のプログラムなど、具体的な企画をつくりあげていく会議です。

7. 進捗を報告・伝達する会議

関わるメンバー同士の情報共有を確実にするための会議です。

8. 問題解決のための会議

組織内部等に発生した問題や課題、組織へのクレームなどに対応する会議です。

9. ルールを決める会議

組織立ち上げの時や新たな事業やプロジェクトを行う時に必要になります。

10. ふりかえり・評価の会議

個人攻撃ではなく、改善して次に活かすための反省と評価を行う会議です。

次回からは、タイプ別に効果的な会議のしかたについて詳しくアドバイスしていきます。

参考:青木将幸著『市民会議術 ミーティング・ファシリテーション入門』ハンズオン埼玉出版部



センター長のつぶやき

まちづくりセンターセンター長 丸藤 競

先日、テレビなどでも有名な茂木健一郎さんの講演を聞くことができました。脳科学者の立場からみた認知症の話は、とても興味深く分かりやすいものでした。

現在、認知症の進行を決定的に止めたり治したりする薬はありません。だからこそ、認知症にならないようにするための予防が大切です。予防に効果があるのは、運動と好奇心と言われています。週に3回以上、30分以上の運動をしているといひそうです。好奇心でいうと、初めてのことをすることで普段使っていない脳の部分を使い、効果が出ると言われています。

東京都健康長寿医療センターの調べによると、毎日外出している人に比べ、週に1回以下しか外出しない人は認知症の発症リスクが3.49倍にもなるのだとか。

いつもとは違う道を歩いて帰ってみる。色んな人と話してみる。イベントや、新しいお店などに行ってみる。運動と好奇心の両方を満たす機会はたくさんあります。中でも、一番効果的なのは何かの活動に参加していただくことです。

茂木さんによると、これからは人工知能の時代になるので、今までのようなペーパーテストの点数が高いことは必要なくなります。それに代わり、自分で問題を見つけられる人が大事になってくるそうです。

この自ら問題を見つけられる力は、様々なNPO活動でも求められます。みなさん、認知症予防のためにも、興味のある活動を見つけぜひ参加してみませんか?